

彙 報

第 53 回日本言語学会大会

東北学院大学において、昭和 40 年 10 月 30 日公開講演会、31 日研究発表会を開催。

1. 公開講演会：

音声の分析と合成	大泉 充 郎氏
構造言語学と言語地理学	柴 田 武氏

2. 研究発表会

日本人の神概念に関する意味論的研究	今泉ヒナ子氏
世尊寺本字鏡のアクセント	前 田 富 祺氏
外来語表記私見	大 友 信 一氏
英語の /h, f/ の区別に際してみられる 日本語音体系の妨害	大 江 三 郎氏
アラビア語弱変化動詞における 形態音素から音素への還元法則	中 野 暁 雄氏
ハザーラ族のペルシャ語について	繩 田 鉄 男氏
タイ国北方のビス語の性格と系統	西 田 竜 雄氏
Contextualization versus Atomization	J. O. ガントレット氏

昭和 40 年度第 5 回委員会

日 時： 昭和 40 年 10 月 31 日

場 所： 東北学院大学

出席者： () 内は委任状受託教

池上二良, 泉井久之助 (2), 亀井 孝, 北村 甫, 高津春繁 (8), 小林英夫,
佐藤 孝, 柴田 武, 鈴木孝夫, 関本 至, 西田竜雄, 長谷川松治,
服部四郎 (3)。白紙委任状 3。委員総数 36 名。

議決事項：

1. 第 53 回大会の運営について委員の役割分担を決定。
2. 昭和 41 年度春季大会 (第 54 回)について
 1. 前田護郎委員を通じて青山学院大学に開催を依頼したところ、同大学文学部長田島信之教授の内諾を得た旨、委員長の報告があり、之を了承した。
 2. 開催日程については、日曜日午前中の教室借用が不能であるため、昭和 41 年 5 月 27 日(金), 28 日(土) をそれぞれ研究発表会、公開講演会に予定することになった。

3. 九学会連合理事会における共同調査及び共同課題の審議結果について、北村甫委員より報告があり、次のように決定した。

- .1. 共同調査「利根川」の準備委員を金田一春彦氏に依頼し、その調査者の選定については同氏に一任する。
- .2. 共同課題「階層」の報告者は、高津委員長を通じて林大氏または同氏推薦の方に依頼する。

昭和 40 年度第 6 回委員会

日 時： 昭和 41 年 2 月 17 日

場 所： 学士会館本郷分館

出席者： () 内は委任状受託数

亀井 孝, 高津春繁 (9), 河野六郎, 小林智賀平, 小林英夫, 佐藤 孝,
柴田 武 (1), 鈴木孝夫, 徳永康元 (1), 服部四郎 (4), 前田護郎, 三根谷徹。
白紙委任状 1。 委員総数 35 名。

議決事項：

1. 昭和 41 年度春季大会 (第 54 回, 於青山学院大学) の件

- .1. 公開講演会の講演を勇康雄, J. O. ガントレット両氏に依頼する。
- .2. 日程大綱は次の通りとする。

5 月 27 日 (金) 研究発表会

28 日 (土) 午後 公開講演会

" " 会員総会

" 夜 懇 親 会

なお, 5 月 28 日 (土) 正午より委員会を開催する。

.3. 大会運営委員長を J. O. ガントレット氏に委嘱する。

2. 昭和 41 年度の国際会議について、国費による代表派遣を希望するものがあれば推薦するように、との日本学術会議の依頼に対し、本会では第 27 回国際東洋学者会議への代表派遣を希望することになった。

なお派遣代表名の申請は当該会議開催期日の 3 カ月前までに行なうことになっているとのことである。(なお、日本学術会議に問合せたところによれば、誤報であって、第 27 回国際東洋学者会議は昭和 41 年度には開かれな
ないとのことである。)

3. 日本学術会議中央選挙管理会委員 (昭和 41 年 3 月 16 日より 3 カ年間) の推薦依頼に対して、本会からは北村甫氏を推薦することになった。

4. 文科系学会連合評議員 2 名 (昭和 41 年から 3 年間) の推薦について、本会からは佐藤 孝, 徳永康元の両委員を推薦することになった。

5. 編集委員長より、当日行なった編集委員会の協議の結果について、次のような報告があり、いずれも承認された。

1. 投稿規定第 6 項の原稿枚数制限について、従来の「400 字詰原稿用紙 30 枚以内(欧文の場合タイプ 450 行以内)」(『言語研究』表紙第 3 頁参照)とある部分を改め、今後は「400 字詰原稿用紙 40 枚以内(欧文の場合はタイプ 600 行以内)」とする。
2. 『言語研究』の刊行時期を従来より繰りあげ、今後は第 1 冊を 9 月中に、第 2 冊を 12 月中に刊行することを目指す。
3. 会員名簿の発行について、今後は原則として 3 年に 1 回発行することとし、さしあたり、昭和 41 年度に 5 月現在の会員名簿を作成し、『言語研究』第 50 号と共に配布する。
6. 第 11 回太平洋学術会議について、三根谷委員より報告があった。(118 頁参照)

◇本会評議員神保格氏は昨年 12 月 6 日逝去された。82 歳。氏は明治 16 年 4 月東京に生まれ、38 年東京高等師範学校卒業。41 年東京帝国大学文学科卒業。東京高等師範学校教諭から教授。昭和 5 年東京文理科大学教授。20 年定年退官。ひきつづき東洋大、東京女子大、日本大、早大、津田大などに出講。21 年東京文理大名誉教授。36 年東京教育大名誉教授の称号を受けられた。

氏は音声学、言語理論に精緻な研究を進められ、この方面において学界に寄与するところ多大なものがあつた。主著に言語学概論(大正 11 年)、言語(市川三喜共訳昭和 2 年)、国語発音アクセント辞典(常深氏と共著昭和 7 年)、標準語研究(昭和 16 年)国語音声学綱要(昭和 22 年)、言語理論(昭和 36 年)等がある。

なお、昭和 34 年に紫綬褒章を授けられ、昭和 39 年の叙勲の際には銀盃を下賜された。

(熊沢 竜)

◇本会評議員八杉貞利氏は 1966 年 2 月 26 日逝去された。氏は明治 9 年(1876 年)6 月東京で生まれ、明治 33 年東京帝国大学卒業、同 34 年ロシアへ留学、同 36 年東京外国語学校教授となり、37 年東京大学文学部・早稲田大学講師を兼ねた。昭和 26 年日本ロシア文学会会長、同 35 年紫綬褒賞を、36 年朝日文化賞を、39 年レニングラード大学名誉博士の称号を授けられ、40 年銀盃 1 組を下賜された。

氏は文学の素養も深く、明治の歌壇に活躍、わが文学史にも名をとどめ、昭和 40

年7月に歌集「ろしや酒」を刊行したが、その後記にある著書目録には次の諸著があげられている：詩宗プーシキン，1906；露西亜語学階梯，1916；露和辞典，岩波1935；日露会話と作文，白水社1937；ロシヤ語文法，白楊社1939；還暦記念論文集，岩波1939；露西亜語文法会話，大阪屋号1939；露西亜語階梯，大倉1941；ロシヤ語発音学，三省堂1941；初等ロシヤ語読本，大倉1943；ロシヤ語講座，橋1947；基礎ロシヤ語，大学書林1947；智恵の悲しみ(グリボエードフ作)，世界文学社1948；ロシヤ文法，岩波1953；初等ロシヤ語文法，第一出版，1957；岩波ロシヤ語辞典，岩波，1960；八杉ロシヤ語教本，第一出版，1961。（井桁貞敏）

会員名簿作成について

本会では昭和41年5月現在の名簿を発行することになりましたので、住所変更、地番変更などのある方はなるべく早くお知らせ下さい。

投稿規定の一部改正について

『言語研究』の投稿規定では、従来原稿の枚数について「400字詰原稿用紙30枚以内(欧文の場合はタイプ450行以内)」に制限してありましたが、これを「400字詰原稿用紙40枚以内(欧文の場合はタイプ600行以内)」に改め、第50号から適用することになりましたので、表紙第3頁の投稿規定の他の項目を参照の上、投稿して下さい。

第11回太平洋学術会議

会期：8月22日より3週間。会場：東京大学(第3週は下記の通り)。組織委員会の部門：I. 気象，II. 海洋，III. 地球物理，IV. 地質，V. 生物，VI. 農学，VII. 水産，VIII. 医学，IX. 社会，X. 人類，XI. 地理，XII. 情報。第1週：8月22日開会式，23～27日の午前約60のSymposium。人類学部門に最も関係の深いものは，No. 9. Prehistoric Culture in Oceania. (Convener: 八幡一郎，25・26日)，No. 49. Folk Religion and Worldview in the Southwestern Pacific. (Conv. 松本信広，26・27日)，No. 50. Nature and Culture of West Irian and East New Guinea. (Conv. 浅井恵倫，23・24日)，No. 52. Peoples of the North Pacific. (Conv. 服部四郎，23・24日)。午後(23～26日)は2つのCongress Symposium。(1) Population Problems in the Pacific。(2) Air and Water Pollution in the Pacific Area。第2週：8月29日～9月2日の午前，部門別に Divisional

Meetings. 人類学部門の部会とその Organizer は, 1. Physical Anthropology (新井正治), 2. Ethnology (石田英一郎), 3. Folklore and Ethnomusicology (岸辺成雄), 4. Prehistory and Archaeology (八幡一郎), 5. Linguistics (泉井久之助)。9月3日, 総会。第3週: Congress Tour (1. 北海道, 2. 東北, 3. 中部, 4. 近畿, 5. 中国・四国, 6. 九州) と Special Symposium (1. 伊勢志摩で Marine Park, 2. 犬山で Primate Biology of the Pacific Area, 3. 新潟で Tsutsugamushi Disease, 4. 上高地・岐阜で Ecological basis of Nature Conservation of alpine and sub-alpine zones)。会員 (Membership of the Congress): 1. *Official Delegates and Representatives*. (加盟国 American Samoa, Argentina, Australia, Brunei, Cambodia, Canada, Chile, Colombia, Cook Island, Costa Rica, Ecuador, El Salvador, Fiji, France, French Polynesia, Guam, Guatemala, Hawaii, Honduras, Hong Kong, Indonesia, Japan, Korea (South), Laos, Macao, Malaysia, Mexico, New Caledonia and Dependencies, New Zealand, Nicaragua, Panama, Peru, Philippines, Portugal, Portuguese Timor, Republic of China, Ryukyu Islands, Singapore, Thailand, Union of Soviet Socialist Republics, United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland, United States of America, (U.S.) Trust Territory of the Pacific Islands, Vietnam (South), Western Pacific High Commission Territories, Western Samoa. 名誉加盟国 Burma, Ceylon, Denmark, India, Netherlands, Norway, Sweden.) 2. *Guests of Symposium* (入選は Convener による。日本人学者は $\frac{1}{3}$ を超えない。) 3. *Participants* a. Contributors (論文発表申込者), b. Auditors (一般会員)。会員は何れの場合も参加手続きをとる必要がありますから, 御希望の方は, 人類学部門組織委員長・八幡一郎(千代田区紀尾井町・上智大学 2 号館人類学研究室)または同幹事・三根谷徹(文京区本郷・東大文学部言語学研究室)に御連絡下さい。なお, 名誉役員は: Patron (名誉総裁) 皇太子殿下, Honorary President 内閣総理大臣, Honorary Vice Presidents 総理府総務長官, 科学技術庁長官, 外務大臣, 文部大臣, 日本学士院院長, 東京都知事, 東京大学学長, Honorary Members 大正 15 年第 3 回汎太平洋学術会議(東京)の出席者(人類学部門は金田一京助, 長谷部言人, 古畑種基の 3 氏), President 朝永振一郎(日本学術会議会長), Secretary General 檜山義夫(東大農学部教授)。